

### 【課題】

1. 台風の災害があり、長野市担当部署、振興局、現地教育機関、住民自治協議会等との連携が進んでいなかったが2月25日の現地支援チーム会議を開催し、地域とのつながりができたてきた状況
2. 任意団体時代の子ども食堂から、第三の居場所としての放課後の居場所へのシフト途上である

### 【解決策】

1. NPO法人認証後の告知（認知）活動支援
  - ①順延となった日本財団協力の小学生向け科学ソニーワークショップ（プログラミング）を開催、小学生やその親への認知を広める
  - ②順延となったNPO法人むすびえ（湯浅誠代表）との連携イベント『食べる・遊ぶ・笑うこども食堂 in三本柳小学校』  
（おもちゃ博物館、吉本興業協力）による周知（自治協議会、小学校などへ）
2. 自主事業支援
  - ①惣菜販売＋JAグリーン長野との連携づくり
  - ②中高生の居場所として17時～20時頃までの学習支援体制づくり。  
（信大生などのボランティアの紹介・ボランティアの育成）

### 【課題】

1. 子ども食堂の多くの子が集まるので第三の居場所の対象者との棲み分けが難しくなっている
2. 開始当時よりも参加する子どもの数が増えてきたため、現状のスペースでは手狭になってきている
3. 問題行動等困難を抱えた子どもへの対応（専門部署との連携、多様な支援体制構築）
4. 継続した活動のため、核になるボランティアも含めたスタッフの育成

### 【解決策】

1. 支援体制 問題行動等困難を抱えた子どもへの対応
  - ①カウンセリング、ソーシャルワーク等外部専門部署との連携、多様な支援体制構築
  - ②ボランティアも含めたスタッフの育成
2. 自主事業の構築
  - ①外国籍児童の日本語教室や学習支援の充実
  - ②中学生の居場所等行政支援の提案
3. 資金調達
  - ①日本語教室の営業活動（対企業）し、スペースの確保

### 【課題】

1. 常駐スタッフが不在となり、シニアボランティアスタッフによる運営へと移行中であり、常時オープンが難しい部分がある
2. 小学校が至近にある、通学路に面している、という立地でないので平日の子ども（小学生、中学生）の利用が少ない

### 【解決策】

1. 利用者の拡大
  - ①無料講座は教育委員会を通じて全生徒へ通知できるので、長期休みに学習支援を行い、子ども家庭に「ゆめひろ」を知ってもらう活動を継続的に行う
    - ・ソニーワークショップ開催
    - ・子ども、家庭向けのイベントの定期的開催
2. 運営体制の見直し
  - ①理事とシニアボランティアのシフトによる常時開店を目指す
  - ②多様な主体によるコンソーシアム型の運営
  - ③運営委員会の支援
  - ④シニアスタッフ、ボランティアの育成
3. 自主事業の構築
  - ①多世代の交流としての自主事業づくり（食、イベント等）
  - ②日替わりシェフのような場所事業の支援

### 【課題】

1. カフェは好評で来客数も安定しているが、常駐スタッフの賃金まではならない
2. フリースペースは、安定して子どもたちが利用している。見守りボランティアも充実しているが、その謝金経費がかさんでいる。
3. 不登校を含め、課題を抱える若者の個別学習支援が運営上重そうに見える

### 【解決策】

1. 経営基盤  
3年後に向けた、人件費と運営費の確保として、好評なカフェ事業の延長線上として、弁当、惣菜販売を検討（食品ロス、作業効率）
2. 行政との連携と資金調達
  - ①就労サポート（自立）支援を福祉就労（制度資金）につなげる
  - ②不登校や低所得世帯などの子ども達の学習サポートを補助事業等につなげる